



撮影場所◎山形市総合スポーツセンター屋内プール(山形市)

奏であう人

かな

vol.50

はが のりひと
芳賀成史 さん(鶴岡市)

ふかせ やすひこ
深瀬靖彦 さん(神奈川県藤沢市)

◎鶴岡市出身、鶴岡市在住。高校卒業後、父親が営む月山山頂小屋の三代目として経営に参画。20代から30代初めまで冬期は蔵王でスキーのインストラクターも務めていたが、現在は専業。2014年から、月山ガイド協会ガイドのほか、鶴岡市羽黒山岳捜索隊長、環境省自然公園指導員としての業務にもあたっている。

◎東京都(文京区)出身、10歳から高校卒業までを山形市で過ごし、現在藤沢市在住。山形ライフセービングクラブ顧問。ポディーボード中に、溺れて流されている人を助けたことがきっかけとなり、ライフセービングの道へ。現在はジュニアライフセーバーの育成にも取り組んでいる。

keyword

山形の自然を安全に楽しむ

月山山頂小屋の経営、庄内浜のライフセーバー。
 山形の自然を心から愛し、その魅力と怖さを知り尽くした
 プロフェッショナルのお2人に、
 自然との上手な付き合い方についてお聞きしました。

写真中央は月山山頂と月山神社本宮。その直下、右側に見えるのが芳賀さん家族が運営する月山山頂小屋。建物はもちろん、水道・ガス・電気設備のほぼ全てを自分たちで修理するという。休憩、昼食の提供や宿泊受入れを行っている。奥に鳥海山を望む。



遊佐町・西浜海水浴場のライフセーバーの皆さん。写真右から3人目が深瀬さん。スタッフには、公益財団法人日本ライフセービング協会の公認資格を持つ、ライフセービング競技の世界チャンピオンもあり、夏の海水浴の安全を守ってくれている。

山形の山、そして海と深く関わって

芳賀さんが家族と経営する月山山頂小屋は、文字通り山頂直下であり、6月下旬から9月下旬までの営業期間中、約2000人の宿泊客が訪れます。

「春から6月までは小屋開きの準備で大わらわ、一年で最も忙しい時期です。お客様に提供するために採取保存する山菜は3ト弱におよびます」。

営業期間中も、数日置きに自力で約50キロもの荷物を背負って運ぶ「荷揚げ」が欠かせないそうです。一方の深瀬さんは、毎年、ライフセーバーとして遊佐町の西浜・金磯・十里塚の3か所の海水浴場で活動しています。

「救助以前に、水難事故を未然に防ぐことを心掛けています。そのために、監視するだけでなく、浜を歩きながらの見守りや声がけにも力を入れていきます」。

危険な漂着物の撤去など、早朝からのビーチクリーンも、安全な海水

浴場づくりに欠かせないと深瀬さんは話します。

山、海の危険を回避し、安全に楽しむ

「月山は多くの登山客に愛される登りやすい山ですが、標高が2000メートル近くあり、晴天でも5分後には雨が降ったり、濃い霧で視界が利かなくなったりと天気が急変することも少なくありません。普段着や軽装での登山はとても危険です。

自然は怖いものと肝に命じて、事前に天気予報を確認し、十分に装備を整えて登ってほしいです。」と芳賀さん。

自然に潜む危険と対処方法について、深瀬さんが言葉をつなぎます。

「まず、ライフセーバーの指示に耳を傾けること。赤旗が立っていたら、私たちができえ泳げない危険な状況ですから、絶対に海に入らないでください。水分、塩分を取るなど熱中症対策も重要です。

また、離岸流(沖に向かう強く速い流れ)には特に注意してください。もし流されてしまったら焦らず

に、岸方向に戻ろうとしないで、横方向に逃げることで、助かる可能性が高くなります」。

セカンドプランを準備し余裕を持って

さらに、深瀬さんはセカンドプランの大切さを強調します。楽しみにしていた海水浴場が荒天で遊泳禁止になった場合に備え、ほかのレジャー計画も準備しましょうと話します。

「山形は温泉もたくさんありますし、名所も多く、ラーメンをはじめ、どこへ行ってもおいしい食べ物が楽しめますから」。

「引き返す勇気も大切ということですね。」と、芳賀さんも深瀬さんの提案に大きくうなずきます。

「少し足を延ばせば、山や海、川などの自然に恵まれているため、山形の人は自然との付き合い方や季節の楽しみ方が上手だと思います」。

私自身、山頂小屋やガイドの資格などを生かして、手垢のついていないありのままの自然を、より多くの方に安全に楽しんでもらえるよう努めていきたいと考えています」。

